

第5回殿ダムモニタリング委員会の総括

1. 審議の内容

平成27年2月23日に開催した第5回殿ダムモニタリング委員会において、以下の内容について審議を行った。

○対象事業

殿ダム建設事業

○審議内容

- (1) 殿ダム事業の概要
- (2) モニタリング調査の概要
- (3) モニタリング調査の経過・結果
- (4) モニタリング調査の評価(案)
- (5) 今後の予定

第5回殿ダムモニタリング委員会の総括

2. 審議の結果

審議結果は以下のとおりである。

1) モニタリング調査の評価について

モニタリング調査結果について以下のとおり評価する。

- 洪水調節、利水補給等ダムの機能が適切に発揮されていることを確認した。なお、下流河川への利水補給について適切に補給されていることがわかるようグラフの表現の仕方について工夫すること。
- 下流河川及びダム湖の水質については、現時点で大きな問題は生じていないことを確認した。
- 動植物については、全般的に、事業による大きな影響は生じていないことを確認した。
- 保全措置を適用した動植物の重要な種(ムカシヤンマ・希少植物)については、地域個体群の存続が図られていることを確認した。
- 生態系(上位性)の注目種クマタカについては、従前と同等の繁殖ペア数を擁する地域個体群が持続的に確認されているものの、現時点で事業地エリアの2つがい(A、Bつがい)については湛水後繁殖成功が確認されていない。
- 地域住民と殿ダムの連携による地域社会の活性化への期待は高まっている。

第5回殿ダムモニタリング委員会の総括

2. 審議の結果

2) 今後の予定について

フォローアップ調査計画について、以下の通り提言する。

- 治水・利水の効果の継続的な検証と広報に努めること。
- ダム湖ならびに下流河川の水質について、継続的、定期的に把握すること。
- 今後のダム湖水質の変化について十分監視していくとともに、ダム上流域の開発行為について情報を収集していくことが重要である。
- 動植物、並びに、社会環境については、今後、千代川水系の「河川水辺の国勢調査」の一環として状況把握を継続すること。
- 保全措置の効果が確認できていないクマタカについては、今後1年間、繁殖状況調査を継続し、その後、状況に応じて必要な対応を図ること。
- 観光資源としてのダムのポテンシャルを活かし、引き続き地域住民と連携した地域活性化に努めること。